

東京都美術館 ニュース

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM NEWS



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

No. 466

人と作品、人と人、人と場所をつなぐ

Art Communication

美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、さまざまなアート・コミュニケーション・プログラムを展開しています。

今回は、新しいスタイルで実施している「Museum Start あいうえの」の活動をご紹介します。

The Museum offers art communication programs designed to take visitors beyond simple viewing to a deeper "experience" of the artworks. This time, we look at new kinds of activities implemented as part of "Museum Start iUeno."

ファミリー・プログラム

「上野へGO!」

Family program "Go to Ueno!"



「Museum Start あいうえの」では、2020年度の取り組みとして、2020年8月よりファミリー・プログラム、学校プログラム、ダイバーシティ・プログラムを実施してきました。ここでは、年間を通じてオンラインとリアルを組み合わせた、新しい形のファミリー・プログラム「上野へGO!」を詳しくご紹介します。

As an initiative of fiscal 2020, "Museum Start iUeno" is offering new family and diversity programs as of August. Here, we explain a new kind of family program, "Go to Ueno!" combining year-long online and in-person activities.

「Museum Start あいうえの」*1とは?

What is "Museum Start iUeno"?

上野公園に集まる9つの文化施設が連携し、子どもたちの「ミュージアム・デビュー」を応援。子どもと大人が共に学びあえる環境を創造する「ラーニング・デザイン・プロジェクト」です。

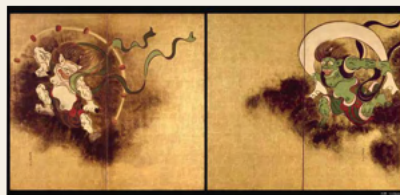
Under the name "Museum Start iUeno," Ueno Park's 9 cultural facilities are working together to support children in their "museum debut." This "Learning Design Project" is aimed at creating an environment where children and adults can learn together.

おうちとミュージアムでの学びを組み合わせ「アートへの出会い」を実現!

"Encounters with art" by learning at home and at the museum!

「Museum Start あいうえの」では、「すべてのこどもにミュージアム体験を!」をミッションに、ミュージアムにある「ホンモノ」を活用したアクティブ・ラーニングの実現を目指し、こどもたちが文化に触れて遊ぶ中で、自然と学びが生まれる「探求型の学び」を提案しています。2020年度は、コロナ禍でもこうした学びを実現するため、新しいスタイルに挑戦し、さまざまなプログラムを実施しました。

ファミリー・プログラム「上野へGO!」は、ウェブ会議システムを使用してオンラインで作品鑑賞をする「ステップ1」と、実際にミュージアムに出かける「ステップ2」の2段階のプログラムです。



オンラインでの作品鑑賞の様子(《風神雷神図屏風》、尾形光琳筆、18世紀、重要文化財、東京国立博物館所蔵)

Scene of online art appreciation
(photo source: ColBase <https://colbase.nich.go.jp/>)



当館での冒険ノート
づくりの様子

At the museum, making
an adventure notebook

「ステップ1」では、オンラインで作品画像をみんなで見つくりみます。この体験を通して「実際のミュージアムで本物を見てみたい!」という気持ちを作ることを大切にしています。全員で挨拶した後、ウェブ会議システムの機能を使って少人数のグループにこどもたちが分かれます。とびらプロジェクト*2で活動するアート・コミュニケーター(とびラー)がそのグループに2名ずつ入り、2つの作品をみながらこどもたちの発見や気づきを聞いていきます。最初は緊張気味のこどもたちもとびラーの導きで絵をみながら自由に意見を出し合っていきます。

「ステップ2」は、それぞれのファミリーが上野公園の文化施設を選んで出かけ、本物の作品と出会う日です。当館に集合したこどもたちはオリジナルのスターターキット*3を受け取り、今日からミュージアムの「リサーチャー(作品をよくみて調べる人)になろう!」と呼びかけられます。自分の目で観察し考えるきっかけとなる「指令書」が渡され、ミュージアムでの冒険の始まりです。

指令書には例えば「あおをさがせ!」と書いてあり、それぞれの行き先で展示物の中からさまざまな「あお」を探してきます。戻ってきたら、どんな青がどんなところにあったかを「冒険ノート」にまとめ公式WEBサイト*4にアップします。とびラーたちはこどもたちそれぞれのそばに寄り添い「どんなことを見つけてきた?」と問かける聞き役になり、発見や気づきを言葉にするサポート

をしました。

オンラインで本物の作品に出会う期待感を高めた後で、実際に本物の作品を鑑賞して言葉にする。この一連の流れを通じて、オンラインと実際の場所に行く2つの方法を組み合わせる「ブレンデッド・ラーニング」と呼ばれる学びをデザインしました。今後も新しい探求型の学びを提案し、こどもたちのミュージアム・デビューを応援する取り組みを続けて参ります。

"Giving museum experiences to every child!" is the mission of "Museum Start iUeno." To this end, "Museum Start iUeno" utilizes genuine artworks to promote children's active learning, and proposes methods of explorative learning arising naturally through contact with culture while children are at play. In fiscal 2020, new kinds of programs were implemented to provide such learning amid the Covid-19 pandemic.

The family program "Go to Ueno!" is an example. Here, learning activities unfolding in two stages were implemented—"Step 1," using a web conferencing system to view artworks online and enhance children's expectations about encountering works, and "Step 2," where children visit the museum in-person to appreciate artworks, and express their experience in words. This activity combining two approaches—going online and going to the actual place—is called "blended learning." For children's "museum debut," we will steadily propose new methods of explorative learning, hereafter.



実際に投稿された冒険ノート(指令書:あおをさがせ、学年:小学4年生、場所:東京国立博物館)

Uploading the adventure notebook (directive: "Find the color blue"; 4th-year elementary school children at Tokyo National Museum)

*1 <https://museum-start.jp/>

*2 <https://tobira-project.info/>

*3 <https://museum-start.jp/startpack>

*4 <https://museum-start.jp/book>

朝倉文夫によるブロンズ像《生誕》。不忍池のほとりにある台東区立下町風俗資料館の横に2020年7月に再設置されました。1964年のオリンピック東京大会を契機に上野恩賜公園入口前の噴水塔のシンボルとして設置された後、2001年に地下駐車場の整備に伴い撤去され、その後、台東区立朝倉彫塑館で保管されていました。

朝倉文夫(1883~1964年)は近代日本を代表する彫刻家。《生誕》は、戦後日本の再生を釈迦の誕生のポーズに重ねて制作したと言われており、1946年10月に東京都美術館で開催された第2回日本美術展覧会(日展)に出品されました。東京都美術館の生みの親である佐藤慶太郎の胸像(1926年作)も朝倉によるもの。当館中央棟1階の「佐藤慶太郎記念 アートラウンジ」に常設展示していますので、いつでもご覧いただけます。

(東京都美術館 広報担当係長 山崎真理子)



朝倉文夫《生誕》 ASAKURA Fumio, *Birth*
提供：台東区

Birth, a bronze statue by ASAKURA Fumio (1883-1964), was re-installed next to the Shitamachi Museum in July 2020. ASAKURA was a leading sculptor of modern Japan. When creating *Birth*, it is said, he sought to evoke the postwar revitalization of Japan in the posture of the newborn Buddha. Also by ASAKURA—a bust of the Tokyo Metropolitan Art Museum's founding father, SATO Keitaro (created: 1926), on permanent display at the museum. (YAMAZAKI Mariko, Chief of Public Relations)

東京都美術館 ニュース No.466

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM NEWS

発行日 2021年3月31日
発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
企画・編集 東京都美術館 広報担当
デザイン 株式会社ファントムグラフィックス
翻訳 アムスタッツ コミュニケーションズ
印刷・製本 株式会社ルナテック

©Tokyo Metropolitan Art Museum

東京都美術館
〒110-0007
東京都台東区上野公園8-36
Tel 03-3823-6921
Fax 03-3823-6920
公式サイト
<https://www.tobikan.jp>
Twitter
tobikan_jp
tobikan_en
Facebook
TokyoMetropolitanArtMuseum

表紙の 写真

イサム・ノグチ《無題》1987年 イサム・ノグチ財団・庭園美術館(ニューヨーク)
(公益財団法人イサム・ノグチ日本財団に永久貸与)

Untitled, 1987, The Isamu Noguchi Foundation and Garden Museum, New York
(Whereabouts: The Isamu Noguchi Foundation of Japan)

©2021 The Isamu Noguchi Foundation and Garden Museum/ARS,NY/JASPAR,Tokyo E3713 Photo: SAITO Sadamu